

続き、オリンピック・パラリンピックの機運醸成を行い、その後は多文化共生にシフトしていく必要があると思っている。例えば、コミュニケーションやホームビジットの講座などを実施することで、多文化共生の道につなげてきたい。

長谷川議員：昨年、12月15日に栄公会堂・栄スポーツセンターで行われたラグビーワールドカップ2019™の日本代表選手を呼ぶイベントに参加したが、思いのほか来客数が少なかった。今後こういったイベントがある際は、周知を徹底していただきたい。

本郷台駅前の魅力あるまちづくりで、三井不動産レジデンシャルのマンションが建て終わり、4月から入居が始まるが、この辺りは50年近い市営住宅が建ち並んでおり、そろそろ建て替えをしていかなければいけない時期ではないかと思っている。その中で、SDGsを絡めたまちづくりを進めていただきたい。

永松区政推進課長：ご意見を踏まえながら進めていく。

長谷川議員：交通改善による温暖化対策実証事業について、小型電気バスの運行というのは、イメージとしては泉区で先行するEバスのようなものか。

永松区政推進課長：20人から30人ぐらいが乗れるようなミニバス規模のもので、ハイブリッドではなく、電気で全て賄われる電気バスをイメージしている。

長谷川議員：防災力向上事業について、障害者や高齢者等の災害弱者といわれる方の避難先での対処方法や避難するまでの動線の確保等に関する施策をこの中に入れていただきたい。

井上総務課長：様々な災害弱者といわれる方への対応については、出前講座のテーマとして扱っている。そのほか、元年度には、地域防災拠点運営委員会の中で、男女のニーズの違いに配慮した拠点の開設・運営スターターキットという、開設の手順を示したフリップのようなものを配布した。また、更衣室や授乳室として、避難先の拠点になる学校の空き教室が利用できるよう、小学校長会、中学校長会でお願いをしている。

林福祉保健課長：災害時要援護者避難支援事業を福祉保健課で行っており、特に拠点に行くまでの要援護者の方の避難については、各自治会・町内会単位で取組をお願いしている。福祉保健課では、様々な要援護者の方がいることへの理解を深めることや、自治会・町

内会の要援護者の方の誘導訓練等に対する経費の補助を行っている。

長谷川議員：避難先においても、持病のある方が安心して過ごせるような取組も今後進めていただきたい。

動物適正飼育推進事業について、栄区は外来種の野生動物が多いため、通報や駆除の依頼について周知をしていただきたい。

古厩生活衛生課長：野生動物の関係は、区役所ではなく、環境創造局動物園課で対応している。今後は、区でも機会を捉えて積極的にPRを行っていく。

大桑議員：「令和2年度 栄区予算案の考え方」について、すごくきれいで見やすい。SDGsは、横浜市としても推し進めているが、栄区としての目玉というものはあるのか。それとも、全体的にまちづくりなども含めて意識をしていこうということなのか。

星崎区長：SDGsについては、事業全体の基礎的な考え方としていきたいが、目玉としては、電気バスを活用したCO₂削減実証などをやっていきたい。

大桑議員：セカンドキャリア支援事業についても、また結果を教えてください。

SC防犯対策分科会について、予算が約1.5倍増になっているが、振り込め詐欺の対策について教えてください。

根本地域振興課長：防犯対策は、警察とも連携して行っており、振り込め詐欺への対策について、現在各家庭には、「留守番電話にしてください」ということを伝えている。2年度は、受話器を取ると「ただいまから通話を録音します」という自動音声が出て、なおかつ録音できる簡易型自動録音機を1,000個用意し、警察や防犯協会と協力しながら必要な家庭に配布したいと考えている。

大桑議員：この簡易型自動録音機は、ただ受話器につければいいだけなのか。

根本地域振興課長：そのとおり。両面テープのようなものでつくようになっている。

大桑議員：栄IC・JCT（仮称）周辺のまちづくりについて、予算額が減になっているが、横浜環状南線の開通が延びてしまったからなのか。

永松区政推進課長：沿線の生活道路の脇に栄インタージャンクション周辺

のまちづくりとして、当初は道の駅構想があった中で、併設型の生活に密着したようなものをつくるという形になっている。4年、5年遅れることを踏まえて、現状は予算を減らしている。

大桑議員：本郷台駅周辺のまちづくり推進については、ぜひ魅力的な本郷台駅になるように進めていただきたい。

水害対策事業について、予算が増額となっている理由は何か。また、避難所の開設について、他の区では町内会が早く動いて開設しようとする動きがあったが、区が待ってくれとお願いするやりとりがあったと聞いた。栄区ではスムーズに対応できたのか。

井上総務課長：水害対策事業の予算については、水害対策広報用スピーカーの出力アップ及び河川水位警告灯を設置するため増額している。この整備は、単年度ではなく、複数年で進めていきたいと考えている。

栄区では、昨年6月に開催した水害災害対策連絡協議会の中で、風水害に対する避難所設置の暫定運用をしており、避難準備もしくは避難勧告が出た場合の避難所開設について定めていた。また、土砂災害のための避難所は、区役所の職員を派遣して開設するということで運用していた。ただ、昨年度の台風15号・19号においての避難所設置、特に10月の19号では、マスコミがかなり注意喚起をしていたため、地域のほうから自主的に開設するというお話や、ここの地域は開いていないのかというお問い合わせがあり、こちらから地域にお願いして自主的な開設をしていただいたということが実際にあった。このことを受け、秋以降、地域の方とも調整しながら検討を進め、2月19日に開催を予定している第2回水害対策連絡協議会で、風水害に対しての避難場所の暫定を更に見直し、ご了承をいただいた上で、本運用としていきたいと考えている。また、区役所職員が開設する避難所に加え、地域の方が自主的に避難場所を開設できるよう、風水害の場合の避難場所開設マニュアルを地域の方と相談しながら作成しており、そちらも周知していく。

大桑議員：父子手帳の発行について、元年度はどれくらい配布したのか。

また、手帳の名称は局でつけるのか。それとも、区独自でつけることができるのか、考え方を教えていただきたい。

佐藤こども家庭支援課長：

父子手帳については、年1,000部程度発行している。

名称については、父子手帳は、いわゆる通称名で、特に法律や制度で決まった名称でない。また、父子手帳という名称で父親の育児の参加ポイントや、子育ての留意点、成長発達の記録などが書けるような紙形式となっている。横浜市で発行しているのは、18区中、栄区だけ。母子手帳の名称については、児童福祉法や母子保健法で規定された法律用語であるため、全国統一という考え方で使っている。

大桑議員：庁舎改善事業について、2年度に実施する内容は決まっているのか。それとも随時、区民から要望があったこと等を実施していくのか。または、何か目的があって通年でやっていくということなのか。

井上総務課長：何かあれば緊急に対応するものもあるが、何もなければ、本館2階の照明のLED化や、本館1、2階の南東側に断熱フィルムを張りたいと考えている。

興石座長：電気バスを活用した実証実験は区連会などでも説明されている自動運転バス実証実験とは全く関係のないものなのか。

永松区政推進課長：自動運転バス実証実験は、国の補助を使って神奈川中央交通が独自で実施するものであり、それとは異なる。

興石座長：連携していく考えは特になのか。

永松区政推進課長：特にな。自動運転バス実証実験は1月中旬から2月の1か月程度の実証であり、運行が可能か、また、どういう課題があるかつかむための実証運転であり、運行無料と聞いている。区が実施する電気バスに関しては、運転免許返納者のみが無料で利用できることを想定しているため、主体が違う。

興石座長：このCO₂削減の実証実験は、区局連携という形はとるのか。それとも、区独自でやるのか。

永松区政推進課長：区独自の予算で実施し、区局連携の予算ではない。ただ、当然、道路局企画課等と調整をしながら実施していきたいと考えている。

興石座長：温暖化対策本部との連携等はとるのか。

永松区政推進課長：まだ連携はしていない。市役所内部でナッジを扱っているYBiT（横浜市行動デザインチーム）等と連携し、どのような形で免許返納が進むか、行動変容を促せるかということも含め

て、CO₂削減につながるような実証を行いたいと考えている。

興石座長：目的は、CO₂削減が一番大きな目的ということか。

栄区が独自で実施するというので、とてもいい事業だと思うので、成果を残してもらいたいと思うが、セーフコミュニティとどう絡めていくのか。また、どのようにゴール設定しているのか。

永松区政推進課長：まず、安全・安心を目指すセーフコミュニティということもあり、昨今話題になっている高齢者の交通事故が非常に増えている状況を未然に防止するという中では、免許返納というのは大きなファクターではないかと思っている。基本的に栄区は交通不便であるため、電気バスを使うことで免許返納に導けるのか、また、栄区の課題として、交通渋滞が挙げられ、自動車の運転をしないことにより、改善ができるのか、最終的には自動車が減ることによるCO₂削減をあわせた形での効果がどのくらい出るか、実験していきたい。

興石座長：道路局が地域コミュニティバスの施策を実施しており、区民から自発的に手が挙がっていると思うが、その方たちと情報共有するということか。

永松区政推進課長：地域交通サポート事業を道路局で実施しているが、基本的には地域の方の一定程度の負担と、その後の継続的な運用が必要になっている。また、実証期間があるため、栄区では手が挙がっていない状況。

今回のこの小型電気バスのルートの中で、一定程度のニーズがあることを把握できれば、地域の皆様にも情報共有し、地域交通サポートを地域の皆様が活用する足がかりにできるかもしれないというところは、期待している。

興石座長：例えば、栄区の課題とセカンドキャリアを結び付けて、神奈川中央交通と協力しながら事業を発展させていくこともできるのではないかと思っているので、区長のリーダーシップでやっていただきたい。

星崎区長：神奈川中央交通が国費を使って実施する事業は約1か月で終わってしまうが、栄区の事業は認めていただければ、3年くらいは継続して実施したいと考えている。その後、地域コミュニティバスに引き継いでいく等、交通不便が少しでも緩和されて住みやすい街になると、次世代の方も転居してきてくれるのではないか。

将来的に向け、色々な施策をつないでいければと思っている。

さらにその先の将来としては、自動運転バスが走ればいいなと思っているが、人工衛星やバスの技術開発が必要になる。その間を横浜市や国などが持っている色々な施策をつないでいくという工夫が必要だと思っている。2年度は、その第一歩を踏み出したい。

興石座長：長期ビジョンで実施していただくと、若い方の就労の場になるだけでなく、高齢者の街というイメージから、新しい技術が発展する街というように、イメージアップにもなると思うので、ぜひ力を入れてやっていただきたい。

栄区の“歴史・文化”事業について、予算規模が縮小傾向のようだが、教育委員会と協力して、栄区に眠っている資産、石碑、お寺等について、例えば重要文化財認定を目指していくなど、もう少し力を入れていくべきだと思うが、どのように考えているのか。

根本地域振興課長：現在実施している歴史台帳作成のための調査が今年度で終わるため、2年度はそれをまとめていく作業を行う。また、区内に設置されている劣化した案内看板の修繕を行っていく。

興石座長：栄区には埋蔵文化センターもあるので、教育委員会文化財課との区局連携という視点で実施していただきたい。来年度は区要望として挙げていただきたい。

振り込め詐欺の対策で、お芝居を使って啓蒙する活動をしている方が横浜市内にいるが、もう少しきちんとやったほうがいいと思うため、ぜひ対応いただきたい。

郊外住宅地の持続可能なまちづくりについて、2年度の予算額が100万円と小規模だが、実施内容について元年度とあわせて教えていただきたい。

永松区政推進課長：元年度に関しては、旧庄戸中学校の廃校後の活用に係る改修工事を検討するための委託費を予算計上している。現時点でサウンディング調査を行い、企業から出た提案については、3月に公表する予定で準備をしている。来年度は、コミュニティハウスとして使っている棟と、全く使っていない棟のうち、全く使っていない棟を解体する、あるいは、今の建築の制限でいくと8メートルくらいしか建たないため、部分的に解体するのかなど、

その解体工事を検討するための委託費として、予算計上している。

興石座長：あれだけの広大な土地を統合してから何年になるか。

永松区政推進課長：平成 27 年からとなる。

興石座長：あの一帯をどう活用していくかという区としてのビジョンが読み取れないように思うが、企業の提案を含め、どのように考えているのか。

星崎区長：地域の方からいただいた提言をもとに、必要な機能を検討しているが、全部を市が行うということもないと思う。民間の力の活用が非常に重要な点だと思っている。

一方、今はコミュニティハウスと地域防災拠点になっているため、その機能を残す必要もある。それを両立するには、ビジネスに使っていただき、なおかつコミュニティの機能を残していただける企業が手を挙げてくれるのが望ましいが、今はそこまで至っていない。今後、企業のご意見もいただきながら模索していく。

また、法的な規制もあり、建物を一度壊してしまったら、もう建てられないということにもなる。できれば、既存不適格物件でも、今ある建物を活用してもらうのがいいとは思いますが、それでも難しい場合は、企業の手もお借りしながら使っていきたい。

興石座長：今、区長がおっしゃったようなビジョンを持って、このまちづくりの議論は最初にスタートしているはず。これが形になるように我々も応援していく。

安心・安全な道づくり事業で、天園の手すりの設置と今回の台風による倒木について、対応いただいて感謝する。

鈴木土木事務所長：手すりの設置については、玄関口と言われているところなので、少しでも整備できればと思っている。また、倒木については、今関係者と調整をしながら進めているが、鎌倉市とも歩調を合わせながらできるだけ早く対応していく。

興石座長：区提案反映制度の中で、翠風荘の浴槽整備を健康福祉局に提案していただいているが、あの施設は不適格状態でも建物を壊してしまうと次は建たないということもあり、建物をどう使っていくのかという議論の中に、この天園のハイキングコースのあり方というのも当然入ってくると思う。関係機関が多いと思うが、ぜひ連携をとって進めていただきたい。

翠風荘についての考え方は何か聞いているのか。

星崎区長：翠風荘については、栄プールの閉鎖が今年度末に予定されていることもあり、翠風荘はどうなるのかということを知っている方が大変ご心配されていることは十分承知しており、その地域の声を受けて区から要望を出させていただいた。

ただ、栄プールが市民局で、翠風荘が健康福祉局で、局間の機能移管等が難しいということと、老人福祉センターがどのような機能を持つ必要があるかということについても、まだ十分議論がされていないため、来年度は区として地域の要望を十分反映していただけるように働きかけていく。

興石座長：広報スピーカーの出力アップについて、既に栄区内の2か所に設置されているスピーカーと連動させていくような機能や、情報共有は可能なのか。

井上総務課長：総務局と調整していくが、区としても、既に水害対策用のスピーカーを設置している場所が5か所あるため、できるだけ同じ情報を流せるように、区から要望している。

興石座長：違った情報がもたらされてしまうと、正しい情報がわからなくなるということを他の自治体で聞いたことがある。一元化し、正確な情報が流れるようにしていただきたい。

ゴムボートの購入について、どこに置いて、誰がいつ使うことを想定しているのか。

井上総務課長：今回購入するゴムボートは、水害対策用であり、基本的には区の本部に置く予定だが、地域で実際に浸水等が発生したらそちらへ持っていくなど、機動的に使用していく。

興石座長：訓練で使用しておかないと、いざというときに使えないと思うので、消防団へ貸し出して訓練を行うなど、購入前に使い方を区民の皆様も含めて共有していただきたい。

災害時に他の自治体からボランティアを受け入れる際は、受け入れの拠点になるボランティアセンターを立ち上げるというルールになっており、栄区では栄図書館になっている。図書館は本がたくさんあり、倒れないような工夫をしたとしても、大地震のときには限界があると思う。図書館にボランティアセンターを立ち上げるということについて、考え直したほうがいいのではないかとこの声はかなり聞こえてくるが、その点について議論はされ

ているのか。

井上総務課長：これまでもそのようなご意見をいただいております、十分認識している。現行の配置の中では栄図書館となっているが、今後、本郷台駅前のまちづくり等も考えていく中で、そのような機能を生かせる場所を検討していきたい。

輿石座長：本郷台駅前の再開発のスケジュールに沿って、新しくできるマンションの公共部分を使うという発想か。

井上総務課長：特段、具体的な話はないが、色々なご意見をいただいているので、今後検討していく。

輿石座長：総務局危機管理室などと相談して、他区はどうしているのか研究していただきたい。

災害時の医療体制の強化ということで、栄共済病院が栄区唯一の総合病院ということで、区民の医療のよりどころになっている。災害の拠点病院には指定されていないが、栄区の指定病院としての機能を栄共済病院に持ってもらおうということについて、何か考えていることはあるか。

林福祉保健課長：栄区内には災害時の拠点病院がない。県が災害時の拠点病院の認定を行うことになっており、栄共済病院がそれを目指していると伺っているため、栄共済病院から相談があれば、区としても応援していきたい。

輿石座長：ペットの同行避難や適正飼育について、栄区内のペットの数は、区役所で把握しているのか。

古厩生活衛生課長：把握をしているのは、登録制度がある犬の頭数だけで、それ以外の猫などのペットについては把握のしようがなく、現在把握はしていない。

輿石座長：同行避難後、避難生活が始まった後のペットはどうするのかというのが局の予算研究会でも話題になったが、足元から情報を集めていくことが必要だと思う。拠点の運営会議等でぜひ協力していただきながら進めていただきたい。

何度か提案させていただいているが、「動物適正飼育推進員」という制度が横浜市にあるが、栄区民では1名しかいない。推進員の養成について、区でも少し強化した方がいいと思うがどのように考えているのか。

古厩生活衛生課長：昨年 11 月に推進員の募集があり、2名増え、3名に

なった。他にも何名か推進員になってもいいという方がいたが、作文等の公募条件が少し厳しいのではないかとと思っている。

興石座長：動物との共生については、拠点の運営メニューにも入っている。推進員の資格を持っている人がいれば、情報の集約等のリーダーシップを担っていただければと思うので、よろしく願いしたい。

外来種については、栄区だからこそ訴えていくべきポイントだと思う。外来種が発生している他の自治体の中には、条例が制定されている自治体もあるが、横浜市は視点としてまだ足りていないので、ぜひ栄区から声を上げていただきたい。

がん対策推進事業について、受診率向上を図る、としながら予算が減額になっている理由は何か。

林福祉保健課長：予算減額の主な理由は、元年度は乳がんのマンモモデルを購入し、地域ケアプラザや子育て支援拠点に置くことで、検診を受けていただけるように働きかけをした。必要なところへの配置は終わったので減額となっている。2年度はこれまで実施している取組について精力的に進めていく。

興石座長：外国人生活保護受給者の不正受給抑止のためのハンドブックについて、これは区が独自に計画しているのか。

村山生活支援課長：健康福祉局が日本語版を作成しているが、外国語版を作成する予定がないということだった。ハンドブックに書いてあることが外国の方に十分に伝わらず、結果的に保護費を返還していただくこともあるため、そういったことを減らし、相談の向上につなげたいと思っている。

興石座長：本来、局で実施するべきではないかと思うので、ぜひ議会に持ち込んで話していきたい。

父子手帳についても、栄区独自で素敵なものを作成しており、とても素晴らしいと思う。栄区らしさをPRする材料にもなるので、これからも栄区の目玉事業として力を入れて実施していただきたい。

障害者スポーツについて、パラフェスタの中で実施するのか。

角田高齢・障害支援課長：

現状では、元年度のパラフェスタの中でボッチャの交流会を実施した。

興石座長：ぜひ、力を入れて実施していただきたい。

	<p>今年はトリエンナーレの年ということで、パラトリエンナーレも3回目になる。栄区としては、パラフェスタと組んで実施していくのか、何か考えていることはあるのか。</p> <p>角田高齢・障害支援課長： 現段階では未定だが、29年度に egao プロジェクトと一緒にアートの要素を入れ、局の区配予算を利用して実施したこともあるため、今後検討していく。</p> <p>興石座長：おもてなし区役所推進事業のワークスタイル改革研修について、どのような内容で実施するのか。</p> <p>井上総務課長：横浜市全体で進める超勤縮減にも対応し、職員の時間の使い方、職員一人一人が効果的、効率的な時間配分ができるよう、人材育成研修の一環として実施する。</p> <p>議事録は座長一任。了承。</p>
備 考	